

小林新田の由来は、東成郡千林村(現旭区)の「岡島嘉平次」<sup>おかじまかへいじ</sup>が開発し、天保3年(1832年)に検地を受け、出身地の千林村の「林」をとって「小林」と名付けたものです。

戦前、当区にあった木材街は、西区の西道頓堀・西長堀等の木材業者が大正6年ごろに集団移転してきたもので、業者が連合して運河・貯木場などの工事を行い、小林町・千島町一帯は西日本有数の木材市場になりました。貯木池は大正運河を中心に広がり、その周辺に製材所、合板工場、貯木場、木材市場などが混在していました。木材関係者の面積は区域の約1割を占めていましたが、戦後の大阪港復興計画による大正内港化工事により、木材関係者は昭和27年から46年にかけて、平林貯木場(現住之江区)へ移転しました。

また、大正内港化工事により、尻無川左岸に近代的な鉄鋼埠頭が完成し、大正第一突堤は、内国貿易雑貨定期船の基地、第二突堤は小型船バースとなりました。また、第一突堤北側には、内港はしけ<sup>さんぼし</sup>棧橋などが整備されました。

工事で発生した土砂は、区内の臨港地区とその背後に送られ全面盛土による区画整理が施工され、市街地の近代化に貢献しました。

